

女性研究者交流を通し女性視点でのキャリア形成を考える

派遣者：神戸大学 人間発達環境学研究科 特命助教 古川 文美子

■渡航地域：インドネシア南スラウェシ州

■渡航期間：2019年3月2日～3月31日

■目的：ハサヌディン大学とマカッサル州立大学の女性研究者とともに沿岸域の資源管理に関するシンポジウム企画を通してインドネシアの女性研究者のキャリア形成を考える。

- ・ハサヌディン大学海洋学部 研究員 Nur Abu氏
- ・マカッサル州立大学 農学部 資源管理 助教 Ratna氏
- ・マカッサル州立大学 栄養学 講師 Erniwati氏

- ▶インドネシアでダイバーシティを考えることの意義？
- ▶南スラウェシ州とは？



1

大学構内の職場風景

■マカッサル州立大学



■ハサヌディン大学



▶子育てと仕事を両立できる理由

- ・未就学児を職場に連れてきても許される寛容さ
- ・（乳児をもつ女性の場合）授乳時間に一時帰宅の許可
- ・家族や地域コミュニティからのサポート
- ・子供が学校帰宅時間に合わせた時間短縮勤務の許可
- ・学内に子どもを預けられる育児施設の設立

2

インドネシアの高等教育と女性

■インドネシアの教育

- ・高等教育の大衆化
- ・PAUD KM 「Mekar Asih」：性差別なしで生徒を平等に教育しようとする早期教育モデル
- ・教育文化省「Bunda PAUD」：幼児教育の母親プログラム

■インドネシアにおける女性社会進出

- ・学術界
- ・政界と産業界

■イスラム教

西洋的な男女平等のジェンダー論では語れない

- ▶インドネシア社会における学術界の特異性？
- ▶ジェンダー格差と地域格差？

3

今後の展開

今回構築できた女性研究者ネットワークを活用してインドネシアと日本における宗教や文化的背景における女性の社会的地位やその変容に関する共同調査

4